

tetrasporophytes. (4) Spermatangial branchlets arose first alternate-distichously on the upper portion of branches and later shifted to a spiral arrangement. (5) Within 30 days after fertilization the carpogonia developed into cystocarps from which carpospores were liberated. (6) The carpospores were slightly larger than the tetraspores, measuring about 65 μm . They gave rise to mature tetrasporophytes in 70 days. (7) The results obtained from this study show that the life history of this alga is of the *Polysiphonia*-type.

□八坂書房の「生活の古典双書」植物に関係したものを主として、我々の先祖の生活に関係のある有名な書物の翻刻が、八坂書房（東京都千代田区神田神保町 1-56）で計画された。「生活の古典双書」といい10冊が予定され、すでに半ばが出版されている。このうち次の2書を紹介する。

平賀源内：物類品隣（宝暦13年，1763），昭和47年4月30日発行，1000円。

森島中良：紅毛雑話（天明7年，1783）。大槻玄沢：蘭説弁惑（寛政11年，1799）昭和47年10月30日発行，1200円。

翻刻というのは原書と異り、普通の活字体に直してあるから、簡単によめてありがたい。もっとも、上の三書はすでに翻刻ずみではある。しかし、たとえば「物類品隣」の田村藍水の達筆の序文などでは、「源内全集」や正宗敦夫編「日本古典全集」では、そのままの複製であるので読める人は少ない。私も白井光太郎の「本草学論改」の活字で読んだものである。今度はすべてが活字化されている。本双書は19.5×13.5 cmで、源内全集のように他と合本で厚くて重いものや、古典全集のようにポケット本で図が小さく、少しものたりないのに比して手頃である。源内はテレビで流行したが、この本で本草学者源内にすこしでも触れてもらいたいものである。郷土の志度にある源内博物館では、門からのぞきこんだり、銅像のみを覗ごしにながめたり、せっかく志度に来ながら僅かな暇と入場料をおしんで入らない人が多いのは残念であると共に、源内の代表作の本も見ないで源内を論じられては困るのである。紅毛雑話についていえば、この原本はめったになく、また高価で手に入れ難い。「文明源流叢書」のものは肝心の絵がなくて興味は半減していた。蘭説弁惑も大部の「磐水存響」によらねばならない。片や源内の弟子で桂川甫周の弟である森島中良、片や杉田玄白、前野蘭化の一番弟子を自任する大槻玄沢のオランダの知識が、一般人の啓蒙目あてにかかれています、その面白さはいうまでもない。これらの本は、よい原本によって図も多く、原本よりきれいで、活字明美に再生された。早稲田大学の杉本つとむ氏の懇切丁寧な解釈がついているのも親切である。

（木村陽二郎）